

菅原公教傳志



~ 4
1609



明
卷
1.609
4

管原贈太政大臣歌集序

夫歌之為道也。

本邦神明之至誠。而王政之要

道也。足以動天地。知萬物之情

性矣。苟正誠述之。則鬼神感應。

禮讓溫和焉。管原公即其人也。

公起為萬乘之賢輔。而能致四

海之昇平。精忠儼然。實為聖代



之父宗也。不圖一羅于藤原。大
大臣之謗。而譴謫於太宰府。遂
薨于筑紫。是以公之歌半亡矣。
惜哉。僅存于世者。或以懷舊遺
憾之歌。強爲公之詠歌。而謾傳
之焉。皆好事者所偽造也。公之
忠誠。豈有此詠乎。徐自治。欲嘗
校訂其實者。數歲矣。自治。慙慙

於此誼也。凡與公之歌者。至國
史諸書及俗傳之說。無不盡採
而索覽焉。自治。有北拳而後人
無疑於公矣。實爲當時之美事
也。即集公之詠歌若干首。號曰
菅原贈太政大臣歌集。庶幾後
學之兒童。此集以像想公之志
操與盛德。則使神明降昭鑒之。

意以筆硯而祉福于不朽者亦復何疑乎。

文化十二年乙亥秋七月

上毛 河井纒謹撰



菅原贈太政大臣歌集

寛平の時時せしむる菊合ふそよま
はくろて葉乃花うきくろくろくろ
あふすくろの濱のくろくろくろくろ
くろくろくろくろ

城風乃吹くくろくろくろくろくろくろ

は白雲くろくろくろくろくろくろくろ

くろくろ

くろくろくろくろくろくろくろくろくろ



法皇宮乃瀆

木村隆

法皇宮乃瀆と云ふ山邊にける侍供也

此の向來とて職を兵旅の初めたりと云ふ人

そやうなるはさふむらう一の山に

まゝ

知らしめ給ふとて小坂とて木の末毎におもひ

森の花をよめる

此の系よりいけり咲きの白の小人や立つて

法皇のまゝのまゝなりし時分田の

まゝ

法皇宮乃瀆と云ふ山邊にける侍供也



紅のまをうらやまの白ふくふく葉のうらやまのまをうらやまの
 願ふらん

紅のまをうらやまの白ふくふく葉のうらやまのまをうらやまの
 まをうらやまの白ふくふく葉のうらやまのまをうらやまの
 願ふらん

楓葉のまをうらやまの白ふくふく葉のうらやまのまをうらやまの
 願ふらん

風をうらやまの白ふくふく葉のうらやまのまをうらやまの
 願ふらん



中葉あつて平とんさくしつもの神乃風みけの白鳥
 鳴るるをさくしつもの

赤甲けのあひさの鶴乃さる梅と秋のさ
 流され侍りもる時

下めれあつてのさくしつものさくしつものさくしつもの
 あつて侍りもる時

君乃さの梅乃さくしつものさくしつものさくしつもの
 野

控乃さくしつものさくしつものさくしつものさくしつもの



降下ばらるる

所より好むくしあふらるる春は人の世

そらばらるる

刈草のまきふのこ見えつる人もあはれはた

野

舟のとも我世をまよおしほしとちまよおしあはれ

押とらるる

途のこ乃朽木は柳まきまのまねはしとあはれ

流されけくるさあははるる



昔の春の朝の光を
 見れば心も春の
 光に照る
 昔の春の朝の光を
 見れば心も春の
 光に照る
 昔の春の朝の光を
 見れば心も春の
 光に照る
 昔の春の朝の光を
 見れば心も春の
 光に照る



月夜とて

月夜とて思ひも西の空に
野々花の

花も散るる
花も散るる

花も散るる
花も散るる

梅とて
梅とて



ありあけのやまをわたる梅乃花の香のこころを
 うきあそびのこころ
 悔のこころの水の香をこころにうつして
 日々をこころ
 あそびのこころのこころのこころのこころのこころ
 ありあけのこころ
 こころのこころのこころのこころのこころのこころ
 こころのこころのこころのこころのこころのこころ
 こころのこころのこころのこころのこころのこころ



雪且國
 印

山崎山崎山崎山崎
 山崎山崎山崎山崎

高視 石大辨後五位下
 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下
 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下
 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下
 兼大學頭

高視 石大辨後五位下
 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下
 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下
 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下
 兼大學頭

道真公世系

大日靈貴 天德日命 夷鳥命 甘味乾飯根命

聖見 宿祢尸垂仁天皇朝賜始三世 身仁德天皇朝 賜連尸 賜連尸

宇庭 河彼守後 古人 先仁天皇天德元年上表改土師成菅原 姓後五位下遠江守兼文章博士

清公 桓武天皇延曆九年改宿祢賜朝臣 是善 參議從三位兼 大學頭勳習長官

公 仁明天皇兼和十一年生母大伴氏十八歲進士及第醍醐天皇昌泰二年 二月正三位石大兼右近衛大將延喜元年正月七日從二位同月廿五日仍 左降大宰權帥三年二月廿五日薨于配所年五十九延長元年四月贈 正二位復本官一條天皇天曆四年五月贈正一位左大臣同月贈太政大臣

高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭

高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭

高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭

高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭

高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭
 高視 石大辨後五位下 兼大學頭

引用書目

古今集

後撰集

拾遺集

新古今集

續古今集

玉葉集

新拾遺集

新統古今集

續後撰集

夫木集

古今六帖

寬平菊合

万代集

新撰朗詠集

雲葉集

總計一十五部

東都

鱸

負治編纂

清水濱臣大人同校

正木千幹大人

文化十二年庚歲次七月新刊

松楓閣藏

